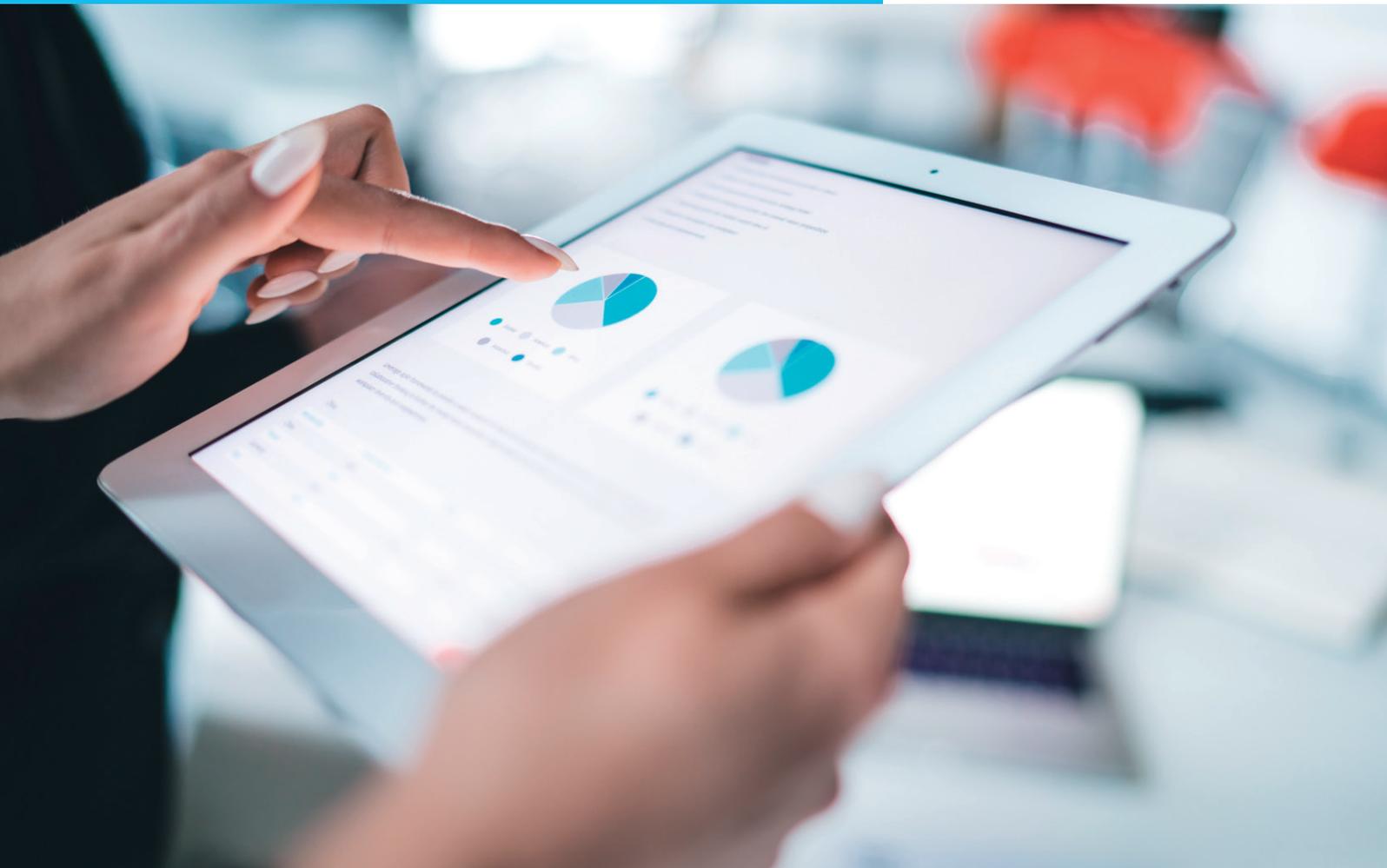


SUCCESS STORY

SB C&Sが、全社1,900ユーザー向け 統合ファイルサーバーを最新化 NetApp AFFを採用し Azure連携を実現



SB C&S

社員の生産性向上に寄与する、
快適なデータ共有基盤の実現に
ネットアップのオールフラッシュ
アレイとデータファブリックを活用。

SB C&Sは、ソフトバンクの創業事業であるICT流通を継承し、通信事業、メーカー事業、サービス事業へとビジネス領域を拡大しながら成長戦略を推進しています。全国10,000社規模の販売パートナーを通じて400,000アイテムを超えるICT商材の流通を担いつつ、AI、IoT、ロボティクス、パブリッククラウドなどの最新のテクノロジーを活用した新規ビジネス開発でも着実に成果をあげています。

SB C&Sの成長の原動力は、1,900名規模の社員の高いモチベーションと息の合ったチームプレイ。同社では部門内のコミュニケーション&コラボレーションを支えるシステムを着実に整備してきました。社員が重要な業務データを共有するための全社ファイルサーバーを2016年に導入。2020年4月には「NetApp AFFオールフラッシュアレイ」を採用してこれを全面刷新しました。目指したのは、社員の生産性向上に寄与する快適なデータ共有基盤の実現です。

1,900ユーザー 17TB規模の ファイルサーバーの オールフラッシュ化

オンプレミスとパブリッククラウドをシームレスに連携させるネットアップの「データファブリック」が、新しいデータ活用を可能にしました。

パブリッククラウド連携を視野に、次世代 全社ファイルサーバーを選定

SB C&Sがビジネス領域を拡大しながら右肩上がりの成長を続けています。ソフトバンクの創業事業に源流を持つ同社が、ICT流通事業とサービス事業に軸足を定めてソフトバンク コマース&サービスとして独立したのは2014年。SB C&S(現社名)へと社名を変更した2019年には5,000億円を超える売上を達成しました。

近年、SB C&Sは付加価値の高いストレージビジネスに注力し、中でもネットアップのビジネスは大きな伸びを示しています。これをしっかりと支えているのが、ICTディストリビューターでも屈指の強力な販売パートナー支援体制です。情報システム本部 プラットフォーム企画推進部 サービスマネジメント課の南田雄哉氏は次のように話します。

「ビジネスの規模と幅が拡大する過程で、社員数も急激に増えていきました。全社共通基盤として2016年に導入したファイルサーバーは、運用開始から3年を過ぎた頃から慢性的な容量不足、レスポンス悪化、

“利用頻度の高いデータはフラッシュ領域で高速にアクセス、利用頻度の低いデータはコストを抑えながらパブリッククラウドで保護、という合理的な運用が可能になりました”

SB C&S株式会社 情報システム本部 プラットフォーム企画推進部
サービスマネジメント課 南田 雄哉氏

運用負荷の増大という問題に悩まされるようになってきました。これらの問題を一掃するとともに、ユーザーの生産性向上に寄与する次世代全社ファイルサーバーの検討を始めたのは2019年の後半です」

情報システム本部で全社ICTインフラの設計・構築・運用業務を担う南田氏は、その一環として全社ファイルサーバーの運用管理も担当。Windows Server 2012ベースの3台のサーバーで構成された既存のファイルサーバー環境は、重要な業務データを扱うため、部門・部署・プロジェクト単位、フォルダやファイル単位できめ細やかにアクセスが制御されています。

「3台の物理環境を高性能なオールフラッシュストレージ1台に統合し、1,900ユーザーの要求に応える十分な容量と性能を確保することを基本方針としました。さらに、最新のストレージ機能でどれだけのビジネスメリットを享受できるか、社内のストレージ販売部門のアドバイスを受けながら慎重に検討を進めました。この過程で、重複排除・データ圧縮、スナップショット、ティアリング、パブリッククラウド連携といったストレージ機能の有用性に注目しました」(南田氏)

2019年末、複数のストレージ製品の比較検討を経て次世代全社ファイルサーバー



SB C&S株式会社
情報システム本部 プラットフォーム企画推進部
サービスマネジメント課
南田 雄哉氏

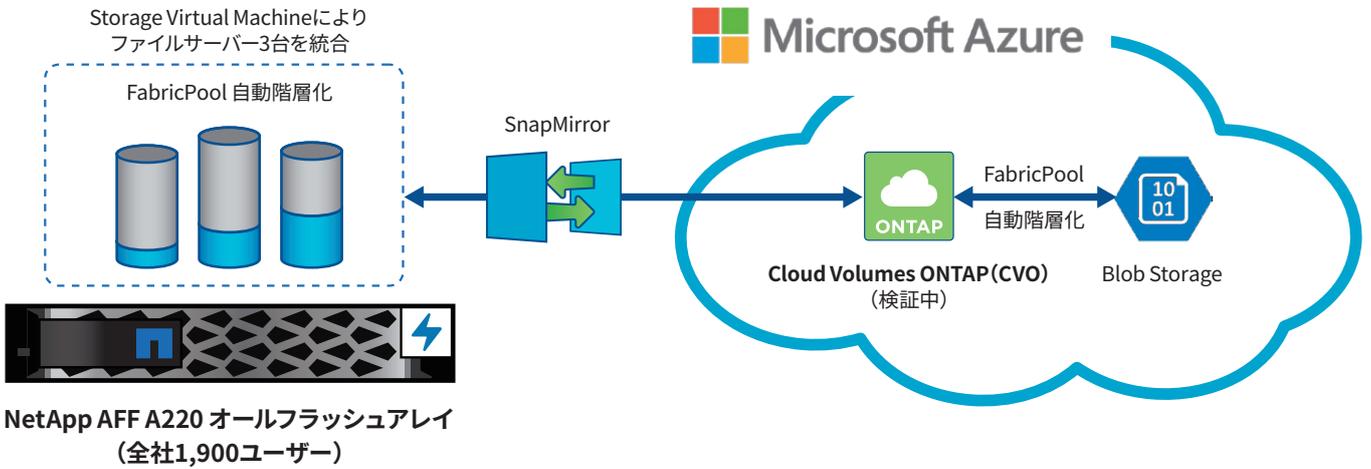
に選定されたのは「NetApp AFF A220オールフラッシュアレイ」でした。

「目の前の課題を解決できるだけでなく、私たちが『これからやりたいこと』を実現できるストレージとしてネットアップの導入を決めました。ネットアップの『ONTAPデータ管理ソフトウェア』が提供する先進的な機能に加え、パブリッククラウドとの優れた親和性が選定の決め手になりました」(南田氏)

圧倒的なパフォーマンスを起点に様々な メリットを享受

NetApp AFF A220オールフラッシュアレイは、Storage Virtual Machine (SVM)により既存の物理ファイルサーバー3台をシンプルに統合し、2020年4月に全社で運用が開始されました。そして、「オールフラッシュの威力をまさに実感した」と南田氏が話す通り、全社ファイルサーバーが直面して

SB C&Sが実現を目指す“データファブリック”の姿



いた課題を次々と解決していきました。

「まず、ユーザーエクスペリエンスが劇的に改善されました。フォルダーへのアクセスや遷移はローカルドライブを使うのと体感的にほとんど変わりません。ファイル読み取り速度は旧環境比で最大1.6倍程度、ファイル一覧の表示速度は最大で5倍強も高速化されました。ユーザー部門から『速くなったね』と言われたくらいですから、驚くほどレスポンスが向上したことは明らかです」と南田氏は話します。

オールフラッシュならではの優れたパフォーマンスを起点に様々なメリットが生まれました。運用面で即座に大きな効果を発揮したのは「重複排除・データ圧縮」と「スナップショット」です。

「NetApp AFF上に既存環境の17TB超のデータを丸ごと移行しましたが、部門単位で運用しているVolumeごとに差はあるものの、重複排除・データ圧縮効果でデータ量は約20～40%強も削減されました。これがストレージ容量とコストの抑制につながっています。また、NetApp AFFではスナップショットを瞬時に取得でき、長時間を要していたバックアップ運用から解放

されました。ブロック差分でのスナップショット取得や重複排除・データ圧縮で生まれた容量の活用により、1時間ごと1日10回のバックアップを行う運用が可能になったことは大きな進化です」と南田氏

ユーザーは最短で1時間前のデータに復旧できるようになりました。バックアップサイクルの短縮は、ランサムウェアのようなサイバー攻撃対策にも有効です。また、ユーザーからのデータ復旧の依頼は増加傾向にありましたが、セルフサービス化により南田氏は煩わしい復旧作業からも解放されました。

コールドデータを Azure Blob Storage へ自動的に移動

「オールフラッシュ化」は全社ファイルサーバー環境の様々な課題の解決に貢献しましたが、「パブリッククラウド連携」は、SB C&Sに更なるメリットをもたらしました。

「現在、30日分のバックアップデータを保持していますが、ティアリング機能を利用してパブリッククラウドのオブジェクトストレージにデータを自動的に移動させています。これにより、利用頻度の高いデータはフラッシュ領域で高速にアクセス、利用頻度の低いデータはコストを抑えながらパブリッ

ククラウドで保護、という合理的な運用が可能になりました」と南田氏

NetApp AFFで管理するデータがONTAPのFabricPoolにより階層化され、利用頻度の低いデータはAzure Blob Storageへ自動的にコピーされる仕組みです。SB C&Sでは、クラウドビジネス推進の一環としてMicrosoft Azureの自社での活用を積極的に進めており、Azure Blob Storageでのデータ保護はこの方針に沿ったものです。

「さらに、Azure上にCloud Volumes ONTAP (CVO)を構築してアクティブなデータをSnapMirrorにより二重化するテストを進めています。Azure上のCVOでもFabricPoolを利用して安価なAzure Blob Storageで階層管理することを検討中です」と南田氏は構想を話す。

CVOは、Microsoft Azureなどのパブリッククラウドで利用できる高品質なストレージサービスです。オンプレミスのONTAPストレージと同等レベルのデータ管理とデータアクセスを実現し、Snapshotや重複排除・圧縮、FabricPoolなどの優れたONTAP機能を利用できます。

SUCCESS STORY

「全社ファイルサーバーは、部門内やプロジェクトで重要なデータを共有するために使われています。このビジネスクリティカルな環境に、パブリッククラウドと連携したデータ保護とBCP/DR対策が可能な環境を整備することは、まさに私たちが『これからやりたいこと』のひとつです」(南田氏)

オンプレミスとパブリッククラウドを横断して新しい価値を生み出す

全社ファイルサーバーで扱うデータは、動画や画像などの大容量ファイルも少なくありません。ユーザーが使いやすいよう制限をかけないで運用してきた経緯もあり、「旧環境では毎月のようにファイルの削除を社内に依頼する必要があった」と南田氏は振り返ります。刷新後はそうした手間も解消され、ユーザーの満足度も向上しました。

1,900ユーザー規模のファイルサーバーのオールフラッシュ化は、世界を見渡しても先進的な事例のひとつと言えるでしょう。しかし、南田氏は「導入コストは想定以下、投資対効果は期待以上だった」と評価します。実際にフラッシュデバイスの容量あたりの単価は大きく低下しており、導入しやすい条件が整ってきました。

「オールフラッシュストレージは高いのでは」という先入観は私にもありましたが、実際に運用を始めて得られたメリットはコストを明らかに上回るものでした。レスポンスの改善とデータ復旧のセルフサービス化によりユーザー問い合わせは激減し、Snapshotによりバックアップは自動化され、Windowsアップデートに悩まされることも、エラーや容量不足などのアラートもこの1年ほとんどありません。数年間利用し続けたときに起こりがちな容量・性能不足の問題は、パブリッククラウド側にオフロードすることでコントロールできると考えています」(南田氏)

南田氏は、オンプレミスとパブリッククラウド環境を統合的に可視化し、運用監視を容易にする「Cloud Insights」の導入にも意欲を示します。

「ハイブリッド環境で全社ファイルサーバーを運用していくには、Cloud Insightsのようなツールを使ってリソースの最適化を図るメリットは大きいはず。将来的には、ハイブリッド環境全体でユーザーにデータの置き場所を意識させることなく、自由にデータを活用できる環境に近づけていきたいですね」

ネットアップでは、オンプレミスとパブリッククラウドを問わずシームレスにデータアクセスできる環境を「データファブリック」と呼び、これを実現するための製品とサービスを拡充させています。南田氏は次のように話して締めくくりました。

「今後はパブリッククラウド上でデータを保護するだけでなく、オンプレミスとパブリッククラウドを横断して新しい価値を生み出す、そうしたデータ活用が可能な環境の整備を積極的に進めていきたいと考えています。ネットアップ製品を導入して得られた最も大きなメリットは、やろうと決めたら『いつでもパブリッククラウドへ移行できる準備が整ったこと』です。ネットアップには、オンプレミスとパブリッククラウドを統合するテクノロジーで、私たちのビジネスの成長を支えてもらえることを期待しています」

NetApp products

NetApp AFF

Cloud Volumes ONTAP

Protocols

NFS

CIFS



ネットアップ合同会社

TEL:03-6870-7600

Email:ng-sales-inquiry@netapp.com

ネットアップは、ハイブリッドクラウドのデータに関するオーソリティです。クラウド環境からオンプレミス環境にわたるアプリケーションとデータの管理を簡易化し、デジタル変革を加速する包括的なハイブリッドクラウドデータサービスを提供しています。グローバル企業がデータのポテンシャルを最大限に引き出し、お客様とのコンタクトの強化、イノベーションの促進、業務の最適化を図れるよう、パートナー様とともに取り組んでいます。

詳細については、www.netapp.com/jaをご覧ください。



Google Cloud、Google Compute Engine および Google Cloud Storage は Google LLC の商標です。
© 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. 記載事項は、予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部を NetApp, Inc. の許可なく使用・複製することはできません。NetApp、NetApp ロゴ、SolidFire は、米国およびその他の国における NetApp, Inc. の登録商標です。その他記載のブランド・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。CSS-7188-0521